

2021年12月9日

ホロジック社の新型コロナウイルス検査試薬でオミクロン株検出を確認、国内における検査体制も対応が可能に

ウィメンズヘルス分野のリーディングカンパニーであるホロジック社（本社：アメリカマサチューセッツ州）の日本法人ホロジックジャパン株式会社（本社：東京都文京区）は、ホロジック社の販売する新型コロナウイルス検出試薬「アプティマ® SARS-CoV-2」が、新型コロナウイルスの変異株の一つであるオミクロン株を検出したことを発表した。

同試薬は、日本国内でも70施設の臨床検査センター、自治体、医療機関で新型コロナウイルス検査のため使用されている。そして、この発表は新型コロナウイルスのオミクロン株が同試薬の判定結果には影響を与えないことを意味し、国内の検査体制についてもこれまで通りの検査対応が可能となることを示唆している。

オミクロン株（B.1.1.529）は、南アフリカで確認された後、アフリカ、ヨーロッパ、北米などの多くの国々で確認され、ウイルスに約30の変異が見つかっている。ホロジック社は、GISAID（Global Initiative On All Influenza Data, <https://www.gisaid.org/>）を介して得られたオミクロン株感染者の175以上の検体に対して遺伝子配列の解析を行い、ホロジック社の体外診断薬「アプティマ® SARS-CoV-2」の標的となるゲノムの領域内には新たな変異は起きていないことを確認した。ホロジック社はヨーロッパの臨床ユーザーからもデータを得ており、帰国者への「アプティマ® SARS-CoV-2」による検査で、オミクロン株による新型コロナウイルス感染が検出されたことが判明している。

ホロジック社は、新型コロナウイルスを検出する検査試薬1億3000万件以上を臨床検査センター等の顧客に提供し世界の検査供給に大きく貢献してきた。世界中の臨床診断検査室には2700台以上のパンサーシステムが設置されており、日本国内での導入数は70機関となる（2021年12月1日時点）。